

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000092		
法人名	社会福祉法人 日翔会		
事業所名	グループホーム にいざと さくらの丘		
所在地	岡山県新見市神郷釜村1235番地1		
自己評価作成日	平成23年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年10月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数による家庭的な雰囲気の中で、ご利用者がその人らしく、個性を發揮した生活が出来るように職員が考え、行動しています。近隣住民との交流も深く、行事での交流や施設前グラウンドを共有しグラウンドゴルフ等と一緒に楽しんでいます。毎月行事や外出企画を取り入れ、ご利用者に喜んで頂ける工夫をしています。また、法人独自の施設評価システムを取り入れたサービスの質向上へ向けた取り組みを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から1年ほどのグループホームながら、中学校跡地の一角に建てられ、すぐ前は高齢者がグラウンド・ゴルフで集う広場であることや、地域振興会や地域包括支援センターとの交流を通じて、すでに事業所の存在と役割とが、地元住民に広く受け入れられている。  
全国的な医療福祉の法人グループに属する事業所として、各種のマニュアルや事例など、豊富なノウハウを取り入れながら、独自の体制が整ってきつつある。グループ内の他事業所を評価し合う「施設評価システム」は、ケアの方法から衛生管理等まで、理念に則った評価項目が幅広く細かに並ぶ秀逸なもので、評価を受けたことで、多くの改善に結びついた。1年間で、利用者の要望を元に職員の考えた「企画」がいくつも実現され、利用者の満足や職員のモチベーションの向上につながっている。常により良いケアを目指そうとする姿勢が強く感じられた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めには事業所理念について、職員に伝える場面を設けている。以降も理念の体現に向けて定期的な面接を行い、職員個人の目標設定を行っている。	法人グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を、今年度の事業所目標「自分らしさが発揮できる、安心のあるグループホームへ」として体現している。これを元に職員ごとに個人目標を定め、その達成に向けた努力と振り返りが、そのまま理念の実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で演芸ボランティア等を地域の皆様や学校生徒様に依頼している。また、地域の敬老会や祭りにも参加している。	地域振興会に加入し、地元の人々とのつながりを深め、近隣の小学生や演芸や伝統芸能のボランティアを招いて交流を図っている。事業所前の広場がグランドゴルフ場になるので、地元住民からもよく認識されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用状況や事故、取り組み等を報告し、委員からの助言や意見等を聞き、運営に反映させている。	「ヒヤリハット報告を詳しく」との意見があれば、次回会議からは詳細な報告をし、「広報誌を出せば」との提案があれば発行に踏み切る等、討議内容をどんどん取り入れて、開催するたびに会議も事業所運営も進化している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の施設指導係りの担当者とは定期的に連絡をとり、状況報告や運営上の疑問などを相談している。	市とは運営推進会議や相談を通して、関係を保っている。地域包括支援センターへ相談のあった独居老人宅に、職員が出向いて様子見をするなど、地域のより良い高齢者ケアを目指した連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成や勉強会などを通して、職員は周知している。身体拘束の実例もなし。	開放、開錠された玄関から、利用者は自由に隣接事業所を訪問したり、庭を散歩していた。法人グループで確立されたケア10か条を基本にした身体拘束をしないためのマニュアルが完備され、勉強会などを通じ、職員が意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の設定やマニュアル化はしていないが、虐待が発見された時などの対応はミーティング等で伝えている。		

グループホーム にいざと さくらの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で職員が学ぶ機会を設けておらず、今後の課題といえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず十分な説明を行った上での同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を設置し、職員にも苦情があった際の対応について指導している。また、今後サービスについてのアンケート調査を実施予定。	利用者や家族からの意見や苦情はほとんどないが、発生時に適切に対応できるよう、苦情処理の研修を実施している。家族とのより良い関係を築き、サービスの質を向上できるよう、家族アンケートの実施に向け、準備を進めていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の部署ミーティングと全体の職員会議を月に1回設け、職員の意見等を聞く場面を設定している。	実現したい提案や意見を「企画書」として提出すれば、定期会議などで討議され、実施か否かが決まる。事業所側は「できることはやってみる」という姿勢で臨み、利用者が楽しめる各種クラブ活動や、職員の勤務時間の変更などが実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面接を実施している。また、昇給についてもわかりやすく提示しており、職員のやりがいに繋がっている。資格取得の推進においても法人で勉強会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や事業所独自の勉強会を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同一事業者同士の部会を設置しており、共通の課題に対する改善や相互研修を図り、サービス向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人の意向や要望については確認している。認知症の程度により、家族から情報を頂くケースもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に困りごとや要望については必ず確認し、情報の共有や記録に残すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を開始するにあたり、早急な対応が望まれる物については、本人や家族と認識を共有し、プラン化している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念を基に職員には伝えるようにしている。現場でもいきいきと生活してもらう為の工夫をカルチャー、家事等の手伝いを提案し一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を切らないように、行事等はいつでも本人と一緒に参加して頂けるようにしている。情報をこまめに伝え、協力頂ける事を提案している。毎月の様子を手紙で伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が面会に来られた時はゆっくり話ができる場所に案内している。	居室やリビングのソファなど、面会者と気兼ねなく話せる場所の確保や、隣接する事業所に通う友人を訪ねやすいように玄関を開放している。また、買い物ツアーなどを通じ、地域社会との関わりを保っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関係を作っていけるように、カルチャーを一緒にできるように働きかけたり、会話の橋渡しをしている。		

グループホーム にいざと さくらの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療により、サービスが終了した方についても相談員が経過を確認したり、その後のサービス利用についても相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞いた要望を企画等で実現に向けた取り組みを行っている。	利用者が話した「やりたいこと」を、全職員が閲覧する「要望ノート」に書き留め、ここから花火大会や野菜作りなど、いくつかが実現した。しかし、利用者各人の愛するものや今までの生き方や価値観など、過去から現在に続く事柄は、職員間であまり共有されていない。	利用者の生活歴や好みなど、職員ごとに把握している情報を共有して、本人の意向をもっと把握できるよう、フェイスシートなど個人別情報の項目や記入欄の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族、前提供機関等から情報を頂き、記録にまとめ、職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報をまとめ、職員が共有できるようにしている。また、変化があった事はミーティング等で伝え、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む暮らしに向けたカンファレンスを行い、変化していくニーズに合わせていけるようにしている。	職員の日々の観察は詳細で、モニタリングや月1回のカンファレンスを通じて、介護の方向性や内容を積極的に話し合っている。利用者の短期的な変化にはよく対処しているが、中長期の緩やかな変化に対する介護計画は、やや大雑把である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼の時間を使い、職員間で毎日の様子について情報共有している。職員で統一したケアを行い、評価をしていくシステムがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できていない。コンプライアンスとの兼ね合いを考えながら行う必要がある。		

グループホーム にいざと さくらの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出企画等による資源の活用やボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が希望される医療機関への受診をして頂いている。近場の診療所の受診については送迎を行っている。また、急な体調の変化等の場合には協力医療機関への受診をお願いしている。	職員が受診を付き添えるのは、近くの診療所に限られるが、家族が毎回付き添うのであれば、入居前からのかかりつけ医を継続でき、約半数がそうしている。職員の付き添い時は、受診結果を家族に電話で知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設された事業所に看護師をいるので体調等の変化があれば、すぐ相談できるような体制を取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に協力医療機関とは連携を図り、経過の確認を行っている。即日でも退院の受け入れを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化され、その後の事業所でのサービス提供が困難になる場合は、同法人に限らず入所系サービス等の情報を家族に伝え、意向を踏まえた対応をしている。	看取りの経験はない。今後、重度化や終末期の可能性が出てきた場合は、本人や家族の意向を聞き、できる範囲で柔軟な対応をしようと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と定期的な研修を行い、職員には対応を周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する避難訓練を定期的に行っているが、地震や風水害に対しては行えておらず、今後の課題といえる。	隣接する小規模多機能型居宅介護と合同で、利用者も参加し、実践的な避難訓練を行っている。しかし、消火器の設置場所や消防署への連絡方法など、全職員の熟知には至っていない。地震や水害等への対策はまだ行われていない。	避難訓練時だけでなく、普段から、火災などの災害発生時に最低限必要な知識や、自然に体が動くような研修を取り入れることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の呼び方は法人で決めごとを作り、徹底している。プライバシーの取り扱いについても周知徹底している。	どの職員も、利用者を名字に「さん」付けで呼び、目線を合わせて、優しく丁寧に、適度に方言を交えつつ言葉かけをしていた。プライバシーの取り扱いや「禁句集」を全職員が研修などを通じて学び、理解し、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の中でゆっくりとご利用者と話す機会もあるので、その中で聴かれた小さい事でも情報として共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活リズムに応じて声掛けや働きかけをさせて頂いているが、ご本人の自己決定を尊重しているため、ペースに合わせた生活ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替えを一緒に準備するようにしている。化粧のアドバイスを頂けるボランティアの受け入れ実績もあり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗い等全員ではないが、お手伝い頂ける事をお願いしている。	食事への期待や興味が湧くよう、毎食前に職員が旬のものなど、献立を丁寧に説明していた。机拭きをはじめ、できる範囲で利用者に手伝ってもらった。昼食と夕食は隣接の事業所で調理するので、職員もゆとりを持って一緒に食卓を囲んでいる。	銘々盆が小さくて、食器をうまく取れない人、机が高過ぎて食べにくそうな人が見受けられた。各人に見合った食べやすい環境を整えるよう、期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックし、記録に残している。アレルギーや嫌いな物にも配慮し、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内のSTに協力頂き、職員には指導をして頂いた。個別にしっかりと口腔ケアができています。		

グループホーム にいざと さくらの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄パターン記録表を使い、個人の状況に応じた、誘導を行っている。	排泄記録や各人のしぐさから、タイミングよく声かけや誘導を行い、排泄の失敗を少なくし、自立を高めている。その結果、昼間はだれもおむつをつけていない。夜間のみ少数つけているが、定期巡回の強化などで必要最小限に留めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	同法人の栄養士に協力をお願いし、献立を作って頂いている為、バランスのとれた食事メニューとなっている。便秘については主治医との相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前には行わず、夕方からの入浴対応ができるようになっている。1対1での入浴を徹底している。	自宅では夜、入浴していた人が多いので、午後から夕方にかけて、概ね2日おきに入浴できるよう、職員の勤務体制を工夫している。恥ずかしさや気兼ねを少なくし、くつろいで入ってもらおうと、利用者1人に対し、職員も1人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅からこれまで使ってきた寝具を持ってきて頂いている。使い慣れたもので安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化については把握し、その日のミーティングで伝えるようにしている。薬効や副作用の確認ができるように個人カルテに情報を入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りやカラオケ、家事等をご本人の希望に沿って提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出企画や買い物ツアーを取り入れている。また、家族による外出、外泊も多い。	庭や事業所前に広がる中学校跡地のグラウンドを散歩したり、庭の一角にある菜園を手入れしたりと、自由に屋外に出られる。月1回は買い物や季節の風物を楽しもうと車で外出している。地元の高齢者がグラウンド・ゴルフをする日には、外に椅子を持ち出して観戦する利用者もいる。	

グループホーム にいざと さくらの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人のご利用者が小銭を管理されている。所持品リストを作成し、金額についても記載し確認できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月必ず手紙で近況報告をしているが、ご利用者本人が書かれてはいない。電話をつないだり、かかってきた電話に出てもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての照明は暖色を使っている。居室も冷暖房を完備し、適切な室温になるよう配慮している。季節に応じた壁の装飾を行い、季節感を感じて頂けるようにしている。	大きな窓から外の風景が良く見え、そばに置かれたソファでは日光浴が楽しめる。整理整頓、掃除の行き届き、すっきりとした空間に、月ごとにみんなで作る絵や折り紙が壁に貼られ、楽しさと季節感を程良く感じる。花や観葉植物、周囲を自然に囲まれた中で、落ち着いた生活ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があるので、気の合う方とゆっくり話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたタンスや寝具、小物などを出来るだけ持ってきていただけるようにしているのので、部屋ごとの特色が出ている。	カーテンと床頭台は備え付けだが、ベッドやタンスなどの持ち込み家具で囲まれ、各人の部屋の雰囲気は異なる。週1回、利用者と一緒に整頓する日を設け、また模様替えを家族と共に手伝い、落ち着きと気分転換を図れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下等の生活スペースには手すりがあるので、安全に移動が出来る。歩行訓練用の平行棒も設置している。		